

## I 学校の現況

### (1) 学校名

愛知産業大学工業高等学校

### (2) 課程

全日制課程（男子のみ）・通信制課程

### (3) 所在地

全日制課程 〒460-0026 名古屋市中区伊勢山一丁目2番29号

TEL : 052-322-1911 FAX : 052-332-3427

ホームページ : <http://www.asu.ac.jp/tech/>

メールアドレス : [info-tech@asu.ac.jp](mailto:info-tech@asu.ac.jp)

通信制課程 〒460-0016 名古屋市中区橘一丁目21番25号

TEL : 052-322-5255 FAX : 052-322-5259

ホームページ : <http://asu-tchs.jp/>

メールアドレス : [asu-tchs@asu.ac.jp](mailto:asu-tchs@asu.ac.jp)

### (4) 沿革

昭和36年 前身の愛知工芸高等学校が創立する。電気通信科設置。

昭和37年 学校名が東海工業高等学校に改称される。電気科設置。

昭和38年 電気通信科を電子科に改称。

昭和40年 通信制課程普通科を新設。

昭和43年 通信制課程に電気科・機械科を増設。

昭和54年 岩塚校舎が落成。

昭和57年 4号館が落成。

平成7年 家庭科実習棟が落成。

平成12年 通信制課程校舎が落成。

平成13年 愛知産業大学工業高等学校に改称。

平成14年 管理棟が落成。

平成19年 2・3号館が落成。

平成23年 創立50周年を迎える。

平成27年 新校舎が落成。橘より伊勢山に移転。

## (5) 学科の構成

### ①電気科、

1年次では電気・電子に関する基礎的な知識および技術を習得します。そして、2年次以降は電気の発生から応用までを幅広く学習し、具体的には、一般住宅における屋内配線などの電気工事やモーター・発電機・変圧器、さらにはロボットの制御、電気計測、コンピュータなどを学びます。また、第二種電気工事士をはじめとする資格取得にも力を入れています。

#### 目標資格

第三種電気主任技術者、第一種電気工事士、第二種電気工事士

### ②電子科

1年次では電気・電子における基礎的な知識および技術を習得します。そして、2年次以降は無線通信や通信機器、ラジオ、テレビなどの電化製品の仕組みやパソコンの利用方法を学び、電子の知識と技術を身につけます。また、ITパスポートや工事担任者DD三種などの資格取得をサポートします。

#### 目標資格

ITパスポート、工事担任者DD三種、第一級陸上特殊無線技士、第二級陸上特殊無線技士

### ③機械科

1年次では機械の基本操作や電気・電子の基礎的な知識を習得します。2年次以降は上級学校進学に加え、上級資格取得に特化したクラスを設けるなど、目的意識を高めるとともに、各種の機械操作や溶接、原動機実習、コンピュータを活用した自動機械の操作実習や設計製図など幅広い工業技術・知識の習得を目指します。また、入学当初より上級学校へ進学する素養を身につけるクラスも設けています。

#### 目標資格

アーク溶接技能検定、ガス溶接技能講習、旋盤技能検定

(6) 生徒数 平成27年5月1日現在

全日制課程

| 学年  | 1学年 | 2学年 | 3学年 | 合計   |
|-----|-----|-----|-----|------|
| 電気科 | 148 | 85  | 72  | 231  |
| 電子科 |     | 86  | 74  | 234  |
| 機械科 | 359 | 379 | 310 | 1048 |
| 合計  | 507 | 550 | 456 | 1513 |

通信制課程

| 学年  | 1学年 |     |     | 2学年 |    |     | 3学年 |     |     | 合計   |     |      |
|-----|-----|-----|-----|-----|----|-----|-----|-----|-----|------|-----|------|
|     | 男   | 女   | 計   | 男   | 女  | 計   | 男   | 女   | 計   | 男    | 女   | 計    |
| 生徒数 | 850 | 123 | 973 | 699 | 88 | 787 | 622 | 100 | 722 | 2171 | 311 | 2482 |

## II 教育目標

(1) 学校法人 愛知産業大学 建学の精神

豊かな知性と誠実な心を持ち 社会に貢献できる人材を育成する

(2) 愛知産業大学工業高等学校の教育目標

社会から歓迎される技術者の育成をめざして本校では、電気・電子・機械に関する基礎から専門的な知識・技術まで徐々にステップアップしながら各分野のスペシャリストとなる人材育成を目指します。また、人格向上をはかるため、心豊かで誠実で、また積極的に努力する人材の育成を教育理念としています。

(3) 愛知産業大学工業高等学校 校訓

感謝・礼儀・誠実・積極・努力

(4) 愛知産業大学工業高等学校 誓いの言葉

私たちは父母のおかげで勉学する機会が与えられているからその期待にそむかず

一生に二度とこないこの時を無駄にすることなく勉学と修養に励み社会から喜ばれる人間になろう



| 評価項目           | 重点項目   | 具体的な取り組み   | 主な結果  | 自己評価および課題等  |
|----------------|--|--|---|---|
| 生徒指導<br>(生活指導) | <p>1、挨拶の励行と遅刻・欠席の防止をし、基本的な生活習慣を確立する。</p> <p>2、みだしなみ<br/>頭髪・服装指導</p> <p>3、登下校のマナーの向上および安全指導</p> | <p>○朝の通学路指導を実施し、教員が挨拶の声かけをする。また、遅刻多重回の生徒に対して段階的な指導を実施。</p> <p>○2か月に一度徹底指導。</p> <p>○学年ごとに金山駅からの通学路を設定し、交通危険箇所を教員を配置。通学路の安全を確保する。</p> <p>○愛知県中警察署管内の自転車安全安心モデル校として「自転車無事故無違反210日ラリー」に挑戦する。</p> | <p>○欠席率<br/>昨年度比 49%減</p> <p>○遅刻率<br/>昨年度比 74%減</p> <p>○服装の乱れは以前よりも減少している。しかしネクタイの緩みが目立つ。</p> <p>○電車内のマナーについて不良という指摘の電話を頂く事があった。</p> <p>○自転車通学者無事故無違反210日を達成し中署から表彰を受ける。</p> <p>○愛知県中警察署と連携し、交通安全指導を2回実施。</p> | <p>○生徒会執行部による登校指導時挨拶運動を実施している。全体的に声が小さいのでさらに声が出せる工夫が必要である。</p> <p>○欠席率・遅刻率ともに減少している。今後も引き続き担任によるクラス全体指導と個別指導のきめ細かい指導を継続する。</p> <p>○夏期ノーネクタイ期間以後の指導強化を要する。</p> <p>○電車通学に慣れない一年生の初期段階での繰り返し指導が必要である。</p> <p>○交通法令は浸透してきており、自宅から学校に自転車で通学する生徒の事故はない。しかし交通機関を利用する生徒の自宅近辺での事故が多く、安全運転の意識啓発について保護者を含め、引き続き促す。</p> |

| 評価項目   | 重点項目            | 具体的な取り組み  | 主な結果  | 自己評価および課題等   |
|--------|-----------------|---|---|--|
| (特別指導) | 4、学校保健活動の充実     | <ul style="list-style-type: none"> <li>○健康診断結果通知配布とともに、診察治療が必要な生徒に対し治療勧告書を配布する。</li> <li>○保健室通信を月1回発行し、健康に対する関心を高める。</li> <li>○サポート委員会を通してスクールカウンセラーと関係職員との情報の共有化を進める。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>○早期発見・早期治療につながった。</li> <li>○健康に対する意識が向上し、遅刻・欠席の減少の1つの要素となった。</li> </ul>  | <ul style="list-style-type: none"> <li>○多くの生徒は早期発見・早期治療につながったが、一部未治療のままの生徒も見られた。治療勧告書配布後の指導の強化を家庭との連絡を密にし、全員治療につなげたい。</li> </ul> |
|        | 1、問題行動防止の意識向上   | <ul style="list-style-type: none"> <li>○毎月1回全校放送で、また、毎日のSTで担任が物事の善悪の判断や先々を考えた行動の実践を呼びかける。</li> </ul>  | <ul style="list-style-type: none"> <li>○愛知県中警察署と連携し、1学年にスマホ情報マナー講話実施(7月)</li> <li>○愛知県中警察署と連携し、2学年に薬物乱用防止講話実施(3月)</li> <li>○特別指導者数<br/>昨年度比 24%減</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>○被特別指導者は前年度より減少したが、携帯・スマホ・ネット関連の指導が急増した。教員・生徒・保護者の共通認識のもと継続して啓発指導をする。</li> </ul>          |
|        | 2、被特別指導の再発をなくす。 | <ul style="list-style-type: none"> <li>○特別指導後も教員が声かけ指導を実施する。</li> <li>○スクールカウンセラーによる面談を実施する。</li> </ul>   | <ul style="list-style-type: none"> <li>○再発者 0名</li> </ul>   | <ul style="list-style-type: none"> <li>○問題行動者に対する指導方法・内容は的確である。</li> </ul>   |

| 評価項目 | 重点項目  | 具体的な取り組み  | 主な結果  | 自己評価および課題等  |
|------|---|---|---|---|
| 進路指導 | <p>1、キャリア教育の充実</p> <p>2、適切な希望校の選択</p> <p>3、進路の決定<br/>(就職)</p> <p>(進学)</p> | <p>○1 学年よりLTを利用して進路学習を実施。</p> <p>○2 学年7月にインターンシップ(就労体験)を実施。</p> <p>○3 学年4月に進路ガイダンスを実施。</p> <p>○各学年外部講師による職業講話を実施。</p> <p>○基礎学力テストを実施。</p> <p>○面接指導を学年・渉外・進路主任を中心に実施。</p> <p>○オープンキャンパス・学校説明会に積極的に参加させる。</p> <p>○学校紹介1次内定率の向上。</p> <p>○学校紹介全員の内定。</p> <p>○工業系大学合格者の増加。</p> | <p>○インターンシップ参加数<br/>H26 参加企業(57社155名)<br/>H27 参加企業(51社151名)</p> <p>○年間6回の課題テストを実施。</p> <p>○H27 進路状況<br/>就職 252名(55.9%)<br/>進学 199名(44.1%)</p> <p>○1次内定率<br/>昨年度比 1.5%上昇<br/>内定率<br/>昨年度同様 100%</p> <p>○H27 進学先状況<br/>大学(77名)短大(16名)<br/>専門学校(96名)その他(10名)</p> <p>○工業系大学合格者22名</p> | <p>○インターンシップ(就労体験)の拡大が必要である。受入れ企業数・参加者数の増加を図る。</p> <p>○3 学年進路ガイダンスで就職希望者は就職する目標を具体化させることができた。進学希望者は希望校の選択肢を増やすことにより、自分の実力にあった学校選びをすることができた。</p> <p>○学年でさらに学習補習で実力の向上を図り、面接指導を増やし経験を重ねることが必要である。</p> <p>○今後も主体的な受験校の情報収集を促す。</p> <p>○1次内定率の向上に向け、適切な会社の紹介、また採用試験に向けた学力の養成が必要である。</p> <p>○資格優先で専門学校の希望者が多い。工業に対する探究心を持たせる専門教科の指導が必要である。</p> |

| 評価項目 | 重点項目  | 具体的な取り組み  | 主な結果  | 自己評価および課題等  |
|------|---|---|---|---|
| 生徒会  | <p>1、生徒会活動・各委員会活動の連携と活性化</p> <p>2、地域に貢献できる活動への積極的参加</p> | <p>○顧問の指導により委員会活動も活性化し、活動意識を高めると共に委員会通信の発行で活動内容を明確にする。</p> <p>○ボランティア活動参加の呼びかけおよび活動実績の掲示。</p> <p>○ゼロの日の通学路清掃活動の実施。</p> <p>○橘座公演の実施。</p> | <p>○夏期休暇中ボランティアに176名参加。</p> <p>○生徒会委員会生徒・野球部員・空手道部員などにより積極的なクリーン運動が展開された。</p> <p>○春・秋の2回落語会を実施。</p> | <p>○各委員会の呼びかけやS T等を利用した担任の指導により、委員会の活動内容が全生徒に伝わった。</p> <p>○夏期休暇中のボランティア活動。献血、あけぼの学園施設訪問等多くの生徒が参加した。さらに活動の企画を増やし、生徒の参加を促す。</p> <p>○地域に愛される学校づくりの一環として地道に活動を展開する。</p> <p>○地域に定着した行事として今後も地域とともに実施したい。</p> |



| 評価項目 | 重点項目   | 具体的な取り組み   | 主な結果  | 自己評価および課題等   |
|------|--|--|---|--|
| 校務   | <p>1、施設・設備の管理</p> <p>2、廃棄物減量</p> <p>3、危機管理</p> <p>4、保護者会活動の充実・学校行事への参加</p> | <p>○校内設備による怪我ゼロを目標に破損箇所や機械の不備を常に点検し、早期修繕に努める。また、生徒に対し、危険因子を説明し、事故防止の意識を高める</p> <p>○環境に配慮しゴミの削減を実践して授業・食事のゴミ処理指導を徹底する。</p> <p>○防災に対する知識や防災設備の使用についての教員・生徒の意識を高める。</p> <p>○保護者役員会を年5回実施。</p> <p>○全保護者に学校行事の案内をし、参加保護者の増加を図る。</p> | <p>○校内の教育設備を使用しての事故はゼロであった。</p> <p>○昨年比 1%増</p> | <p>○継続して安全点検を実行して安全状態を維持し、危険箇所の撲滅に努める。</p> <p>○日々の積み重ねが結果に繋がる事を意識させる方法を検討する必要がある。</p> <p>○校舎の移転に伴う危機管理の再構築が急がれる。</p> <p>○保護者との信頼関係が確立されており、教育活動の理解と協力の体制ができている。今後も生徒の学校生活の充実のために、保護者会活動を継続して実施したい。</p> |

